

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	姫路市総合計画策定審議会 第3分科会 第4回会議
2 開催日時	令和2年7月15日（水曜日） 14時00分～16時05分
3 開催場所	姫路市役所 本庁舎10階 第2会議室
4 出席者又は欠席者名	姫路市総合計画策定審議会委員 第3分科会 委員 10人中 8人（2人欠席） 姫路市総合計画策定審議会参与 5人中 3人
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可（5人） 傍聴人（0人）
6 議題又は案件及び結論等	1. 開会 2. 審議 3. その他 4. 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	<p>1 開会 (14:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日は、お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。ただいまから姫路市総合計画策定審議会第3分科会第4回会議を開催する。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、分科会については4月に予定していた会議を延長して、約3カ月遅れでの開催となった。ただ、総合計画は市政の大きな方向性を示す重要な計画なので、会議のスケジュールは見直すが、総合計画の策定自体は、当初の予定どおり今年度中の策定を目指したいと思うので、引き続きご協力をお願いします。 ・委員の皆様におかれては、新型コロナウイルス感染症の対応を含め、大変お忙しいと思うが、引き続きご審議いただくようよろしくお願いする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・欠席委員等確認
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き分科会の会長を務める。初めてお目にかかる先生方、よろしくをお願いします。 ・新型コロナウイルス感染症は、誰もが当事者となりうる感染症で、行政も本当にご苦労があると思う。私ども市民も、厳しい状況の中、不安を持ちながら過ごしているところである。私どもの所管する第3分科会は、健康・福祉・教育の分野なので、皆様方の思われることも様々あると思うが、所掌のことについて力を合わせて進めていきたい。ご協力をお願いします。 ・本日は、16時終了という時間の制限があるので、よろしくお願いする。
分科会会長	<p>2 審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「当日資料1 分野目標（案）「健康福祉分野」、政策（案）」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>[説明資料] 当日資料1 分野目標（案）「健康福祉分野」、政策（案）</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、順番に今ご説明を頂いた政策1、政策2、政策3という形で、一つ

	<p>一つの政策について議論していきたいが、最初の分野目標からご審議いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1点、私から確認させていただいてよいか。1月の全体会議で全体のリーダーである先生から、キーワードの中に「外国人」という言葉が一切入っていないというご指摘があった。私どもの分科会でも当然ご質問もあったし、私たちのところで高齢者、障害者、子ども、生活困窮者という非常に特性のある方を浮かび上がらせて、市民全体と考えているというご説明をしたが、在住外国人を含めるべきではないかというはっきりとしたご質問、ご提言であった。それについて今のご説明の中に一切なかったので、私としては最初に気がかりに思った。ご参加いただいた方はどうか。私としてはとても気になる点であって、キーワードとしてどの分科会にも含めるべき、ということだったので、事務局からご説明いただければと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今、会長が言われたように、目標の1行目に「高齢者、障害者、子ども、生活困窮者」ということで、健康福祉分野という中で対象となる方々をはっきりさせる形で挙げている。その後、「すべての人が」と続けているので、その対象の中に外国人も踏まえた政策を展開するということである。「在住外国人」というキーワードを分科会のほうで入れたほうが良いというご意見が多いようであれば、そういう形で修正することも検討する。ほかの分野では「外国人」という言葉がはっきり出ているところもあるが、ここは健康福祉分野なので、あえて「外国人」という言葉は出さずに、今申し上げた対象の方々を特に重視しているということで分野目標に書いている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の全体会議から今までの記憶の中で、全体に投げかけられたことと思ってお聞きした。分野目標にも関わってくることなので、委員のご意見はいかがか。今の事務局のご説明では、特に挙げない形で進めて、目標のところは変更のない形になっている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「すべての人が」の中に包含されているということである。 ・在住外国人だからということではなく、人として高齢者、障害者、子ども

分科会会長	<p>という対象で整理をしているつもりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのようなことで、ご意見はいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は今、職場で外国の方と一緒に仕事をしている。そうした外国の方がパッと見たときに、「すべての人が」の中に自分たちが入っていると気づくのか疑問があるので、具体的に表記したほうがすべての人に対して分かりやすい。日本で生活して、慣れてきている方はいいが、日本の言葉が分からない方もいることも踏まえ、より分かりやすい方向を考えるのであれば、明記してもいいのではないか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・実際、姫路市では、在住外国人の方は年々増えているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、外国人の人口は増えていっている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それから、やはり国際観光というところでも、姫路市は様々なところで世界発信をうたっているのですが、実際にお住まいの方と一緒に協働していくというところでは、ご検討いただいてもいいのではないか。ほかの委員のご意見はいかがか。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人という話だが、実際に健康福祉の分野で対象になるのは、高齢者、障害者、子どもであろう。今回は第3分科会ということで、外国人はすべてに関わってくると思うので、これを一個一個挙げていくと大変なことになる。総合計画の最初の大前提に外国人を入れるような表記でいいのではないか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この分科会では、いろいろなご意見で話し合いながら、最終的には事務局のほうで総合的なご判断、それから全体のご判断を頂こうと思っているので、宿題として頂いたところをどのようにこの分科会の中で検討したかが重要である。ご意見を頂戴したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに「在住外国人」というキーワードを取り上げるのは大事と思うが、

	<p>ここで入れてしまうと、後の取り組むべき政策や主要事業の概要との整合性がつきにくくなる気がする。それぞれの分野で含まれてしまうと個別的な課題が見えにくくなることもある。10年を見越した計画を作ることから、個別化するとどうなのかということもあるし、判断が難しい。</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉分野で目配りの必要な方の代表として、高齢者、障害者、子ども、生活困窮者という4つの範囲にとどめて、代表を象徴的に挙げて、「すべての人が」というのが現状である。このようなところでよろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局としては、次の第5回分科会で教育分野について審議していただくことになるが、第5回るときに本日の分科会でのご意見を踏まえて修正した部分を説明させていただく予定である。今頂いた宿題については、健康福祉分野の分野目標に入れるのではなく、総合計画全体に係る主体として外国人が含まれていることが分かる形で考えたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど、観光の中心になっているという話と、在住という話があったが、観光客の方が体調を悪くして倒れられたときも、やはり健康福祉のほうはすごく重要な部分になるので、外国人イコール在住とするのはどうか。となると、「すべての人」の中に皆含まれるのかとも思う。とても難しい問題である。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・政策も幾つかの分野に分かれているし、例えば安全・安心の分野になると、また随分広いお考えもあるだろうから、外国の方についてどのように扱うのが全体の中で適切か、もう一度事務局のほうでご検討いただくとありがたい。 ・目標については幾つか追加をしていただいたところがある。3点目の「年齢や障害の有無などに関わりなく、誰もが普通の生活を送ることができるノーマライゼーションの理念が浸透し、よりきめ細かな福祉の対応が必要となっています」というところと、下の生活衛生関連のところ新しい感染症についてお書きいただいた。この辺りも含めて、ご意見はあるか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・3点目の網かけ部分については、追加というよりも、ノーマライゼーションという言葉の意味が分かりやすいように、それを説明する「年齢や障害の有無などに関わりなく、誰もが普通の生活を送ることができる」というフレーズを前に持ってきた。文章の前後を入れ替える修正をしている。生活関連の1点目は、新型コロナウイルスという言葉を追加した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に言おうと思ったが、この網かけされている部分の「年齢や障害の有無などに関わりなく」という表現に関して、資料「想定される取組」を見たが、障害者に対する施策が薄いのではないか。文中にも「障害のある人もない人も共に」とか「すべての人々が」という表現があるが、そういう表現によって、ある意味、障害者を軽く位置づけられているのではと危惧する。具体的なことは後で申し上げる。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・政策2との関係もあるという中でのご発言とお聞きしていいか。表現することによって、かえって埋もれてしまうこともあるというご意見であった。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この網かけのところを、そんなにこだわらなくてもいいかなと思いつつながら読んだが、「普通の生活」ということに対しての議論があったかなかったか、お聞きしたい。厚生労働省のノーマライゼーションの定義を調べたが、障害のあるなしにかかわらず、共に生き生きと活動できる社会という表現になっている。それを最もシンプルな言葉で「普通の生活」としたほうが、市民の方にとってはいいという議論があってこの言葉に落ち着いたのか。それはなくて「普通の生活」でいいだろうとなったのか、議論のレベルを教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民目線で読んで分かりやすいように配慮して、今回は「普通の生活」という表現にしている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そこについては、もしかするとパブリックコメントをされたときには気になる表現かもしれない。ここで表現する用語について、現在、市民の方が

事務局	<p>どう理解しておられるかというところもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・では、追加したところはいかがか。災害に関する点は、安全・安心分野で扱うので、健康危機管理という点に集約されているという捉え方でいいか。 ・防災、安全・安心は第4分科会の所管になるので、災害についてはそちらで整理している。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有という中には情報発信も入っているという捉え方でよろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・その辺りが現在とても重要視されている。 ・では、次に進めてもよろしいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・細かいことだが、生活衛生関連の下線の最後の部分、「感染症の拡大が住民の健康の脅威となっています」とあるが、後ろのほうでは「命と健康」という表現になっているため、ここも「住民の健康と命の脅威となっています」としたほうがよい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・目標自体が「命・くらしの支え合い」と掲げているので、そこはもしよろしければ追加する形で「健康、命」という表現に変えたい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今のご意見で、少し文言の追加、ご検討をお願いします。 ・では、次に政策1から順に確認していく。資料1-1の政策1「地域に根差したきめ細かな福祉の充実」、資料の右側の「目指す姿を実現するための方向性」と「市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること」を中心にご議論をというのが事務局からの提示である。ここについては当初から変更はないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これは、今回初めてお示ししている。

分科会会長	・「人」、「地域」、「活力、土台」という方向性で項目を挙げて整理している。いかがか。
参与	・エに「姫路市総合福祉会館を中心とした相談支援体制の強化」とあるが、あえて総合福祉会館の名称を出しているのか。
事務局	・福祉に対する相談体制のワンストップ化ということで、総合福祉会館の役割が位置づけられている。総合計画は10年間の計画という中で、これから機能の強化に取り組んでいくという方向性を示している。
参与	・相談支援体制の強化はいいが、「総合福祉会館を中心に」と書くほうがいいか書かないほうがいいか、その辺は考える余地がある。
事務局	・総合福祉会館という具体の名称は出さないほうがいいのではというご意見だが、そこは方向性なので、取ることにに関しては可能かと考える。
分科会会長	・今のご意見に関してでも結構であるが、他にいかがか。
分科会副会長	・相談支援体制を強化する際に、仮に姫路市総合福祉会館という固有名詞を書かないとすれば、強化をするための核になるものは何か。
事務局	・当然、総合福祉会館が核になってくるが、総合福祉会館と書かずに、「中核的な拠点における相談体制の強化」というような言い方、修正になるかと思う。
分科会副会長	・その具体的な施設は何かと聞きたくなる。どういう表現にすればいいだろうか。
分科会会長	・ほかの先生方もご意見がありそうである。
委員	・総合福祉会館の中に福祉相談窓口というワンストップの窓口があって、

	<p>今コロナの関係で集中的にそこへ人が集まり、そこからいろいろ対策をしていると思うが、もう少しその福祉相談窓口についての説明が要る。会館は姫路市の総合福祉センターとしての位置づけをもって造られているので、その辺の関わりをもう少し説明できればいいのではないか。</p>
<p>参与</p>	<p>・ご相談を受ける方の中にも、総合福祉会館へ相談に行けば一括しているいろいろなことができるということが定着しつつあるので、書かなければ分からないし、どこが核になるのかというのが明確であったほうがよいだろう。</p>
<p>分科会会長</p>	<p>・建物の中にどんな機能が内在しているかということの表現や、市民の方がそこで交流をしながら一緒になって福祉を考えていって欲しいという思いの中で具現化したものが総合福祉会館の機能ではないかとの考えについて、委員の中で出てきた。みなさんのご意見も含めて、今の表現でよいか。</p>
<p>参与</p>	<p>・実際、「手をつなぐ育成会」でも特定相談業務が去年からなくなったり、根本的に変えていかないと駄目なのと、行政のほうが援助するなら援助するで、きちんとしたものが欲しい。この間、議会で質問したが、法律相談所みたいに専門家を置く形がよい。皆さんは総合福祉会館に専門職がいると思っているが、あそこは中継地点みたいになって、行っても実際の相談にならないという話が多々ある。根本的にその辺をどうするのか書いてもらわないといけない。</p>
<p>事務局</p>	<p>・基本的には、強化していくという方向性は皆さん一致しているので、具体的な内容については、実施計画で整理していく。</p>
<p>分科会会長</p>	<p>・大変だと思うが、この辺りは検討の要素があるということでとどめてよろしいか。ほかにご意見はいかがか。</p>
<p>委員</p>	<p>・読ませていただいて、「人」のイと「地域」のウが同じように感じた。ウの中身を見ると「活力」のことも思う。地域の人を借りて福祉力の向上を図るという内容に読み取れるので、私には「活力」のほうが理解</p>

分科会会長	<p>しやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは、「人」のところにイがある、「地域」にウがある、「活力、土台」にエ、オがあるという読み方でいいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。それぞれボーダレスのところがあり、読みようによっては、これはこちらではないかというのがあるかと思う。 ・言われるように「人」と「地域」、それから「地域」と「活力」のところは、似たようなところがあり、事務局としてまとめるのに苦労している。 ・最終的に目指すところはどこかというところで分けているとご理解いただければと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この「人」、「地域」、「活力」、「土台」というのは、全体を通してこの形で市民の方に方向性を説明しているので、もしかすると文言等は、ご意見を頂いた中で調整が入るかもしれない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の方にもご案内申し上げたが、先月の6月27日に総合福祉会館でタウンミーティングを開催した。この分野にかかる意見としては、災害時等の高齢者や障害者など1人で避難できない人がいる。SNSや地域の力を使って、高齢者、障害者を支えるようになればいいのではという意見を頂いた。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・近々のところでのご意見を踏まえて、事務局から報告を頂いた。では、文言等の確認については、後にしてもよろしいか。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・確認だが、方向性を書いてある言葉で、政策に「地域に根差した」とあるので、地域福祉活動とか地域という言葉が必ずついている。コミュニティで自分たちができる活動を主体的にやろうという意味の「地域」だと思うが、「市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること」と書いてあるところは、「福祉活動」となっている。一般的な福祉活動というように、もう少し広い概念で福祉というものを捉えた上で、あえて「地域」という言葉

事務局	<p>を外して「福祉活動」とされたのか、その辺りはどうか。</p> <p>・今言っていたのは、「市民」のところの「地域が抱える福祉課題を自分事として捉え、福祉活動に積極的に参加しましょう」という部分か。</p>
分科会副会長	<p>・はい。</p>
事務局	<p>・最初に「地域が抱える福祉課題」という始まりで来ているので、その後ろの「福祉活動」も地域のものとして記載しているということである。</p>
分科会副会長	<p>・説明は理解しているつもりだが、「地域福祉活動」とか「地域の福祉力」というのが一つのタームとして存在しているのかなと私は思ったので、そこは文脈として読んでくださいということであれば十分理解できる。</p>
事務局	<p>・「地域福祉活動」というのは、定義がある一つの言葉だと思うので、軽々に切ったりしないほうが意味はつながるかもしれない。言葉の重複感があっても、あえて使うということも確かに考えられる。</p>
分科会副会長	<p>・例えば「地域」の福祉活動とすると、より鮮明にコミュニティや地域ということを強調していると読み手には伝わるので、どうかなと思って発言した。そこに執着しているわけではない。</p>
分科会会長	<p>・難しいところで、福祉については法が変わったり制度が変わったりしている。それから、国全体が国民に対してメッセージを出すときの言葉があるので、そのようなものと、市の中で使うときに、もしかすると確認が要るところがあるかと思う。</p> <p>・では、次に進む。政策2、「いきいきと暮らせる障害者福祉の充実」。ご検討いただきたいところは同じである。右のページの「目指す姿を実現するための方向性」と「市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること」である。政策2について、いかがか。</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿の方向性の力の「社会的障壁のない環境づくりの推進」のところで、「バリアフリー化など、社会的障壁（バリア）」とあるが、このように書くと物理的なバリアだけに限定されてしまう。本来、法律で言う社会的障壁とは、市民の意識も含めて、我々の社会制度全体の中にバリアがあるということなので、これは取るなり表現を変えたほうがいい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・むしろ取ったほうがよろしいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これを見ると、限定的なバリアみたいになるので、実際の法の趣旨はそうではないと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。ご検討いただけるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・修正を検討する。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのお立場でご専門がおありなので、見て気になるところがあれば、どうぞ。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から補足説明させていただく。冒頭、想定されている取組として書いている項目が薄いのではというご意見があったが、基本構成には、現在実施している取組を踏まえた上で、方向性として挙げるべき主なものを挙げているので、そこはご理解いただけたらと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか全てを網羅するのは難しい。参考資料として想定される取組という資料もご準備いただいたので、それも見ながらご意見を頂戴できればと思う。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な表し方について、「活力」と「土台」はどう違うのか。政策1では、「活力」と「土台」が一緒のようになっていて、2、3は「活力」と「土台」が分かれている。これは何か意味があるのか。

事務局	<p>・今日の資料にはないが、1月21日に報告してご承認いただいた中間報告の中の行動指針では、活力のところについては、「姫路・播磨が持つ優位性やICT・AI等の先進技術などを生かし、世界に誇れる新たなまちの活力をともに生み続けます」、土台づくりとしては、「未来の市民を含め誰もが健やかに、そして快適に住み続けられるような土台（仕組みや基盤）をともにつくります」と書いていて、土台というのは仕組みや基盤と理解していただいたらよい。活力は、言葉どおり、まちの活力の源になるようなものである。</p>
事務局	<p>・今、政策2を議論していただいているが、2、3、4は障害者福祉、高齢者福祉、子ども福祉となっていて、今説明のあった「土台」のところは、制度づくりみたいな話にしていて、「活力」のほうでサービスを充実していくという形で整理している。</p>
分科会副会長	<p>・今の発言に関連して、私はこれを読んだとき、はっきりと分けられるものではないだろうと思った。その中で、方向性のウの「障害特性に応じた支援の充実」というのは、活力づくりを読み手が解釈すれば、当然そのように読めると思うが、私はやはり基盤ではないかと思った。それは勝手な解釈なので、どうしても読み取れるかもしれないが、「土台」としてそういった支援を充実させることによって、地域とか活力が促進されたり推進されたりするのではないかという読み方をしたので、検討に値するかどうかわからないが、発言した。</p>
分科会会長	<p>・これは難しい。市民に分かりやすい表現の整理の仕方と、その一つ一つが示す広がりや深さというところがある。ほかの方でご意見はあるか。「市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること」についてもいかがか。</p> <p>・文言については様々なご意見があり、決定づけにくいところもあるので、事務局で再度ご検討いただき、追加の確認ということで進めていっていいか。</p>
事務局	<p>・今の委員のご意見について、制度や支援の充実は他の分野でも出てくる</p>

分科会会長	<p>項目と思う。全体を通してどこに収めるのがいいか、健康福祉分野だけでなく、ほかの分野も含めた中でふさわしい場所にするように考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再度、整合性についてご検討いただくところで収めさせていただく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の「障害特性に応じた支援の充実」の部分で目指すべき方向性が示されているが、例えば参考資料の想定される取組の障害者福祉の充実の部分の障害福祉人材の確保・育成のところ、今回のコロナで実感したのは、視覚障害者の同行援護という観点でいくと、外出が激減して、現在もその状況が続いている。利用者だけでなく、同行援護に関わる人も感染を恐れて同行しなくなる。ここでは意思疎通支援として手話と要約しか触れられていないが、やはり移動支援なり同行援護事業等の従事者の育成も含まれてしかるべきと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・タウンミーティングでも視覚障害者の支援に関するご意見があり、視覚障害者の行動がいついかなる場合でもとれるように配慮してほしいと伺った。また、私も非常にいい意見と思ったのは、障害者の方から、今までは要望するだけだったが、自分の立ち位置を基に健常者と協力してできることを一緒に考えていきたいというご意見を頂いたことである。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。そうすると、その下にある市民として実際に行動していただくことにも関連してくるかなと思う。今回は総合の政策というところなので、場合によってはその下にひも付けになっている分野別の様々なところでご検討いただかないといけないところもあるかと思う。 ・政策3に移る。「健康で安心して暮らせる高齢者福祉の充実」のところで、ご意見を頂戴したい。ご追加いただいたフレイルなど、その辺りはいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイルという言葉は皆さんご存じと思う。加齢とともに運動機能、認知機能が低下するが、適切な介護をすれば生活機能の維持向上が図れるということである。

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・かなり浸透してきたので、表現していただいた。いかがだろうか。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・2点発言する。 ・例えば「現状と課題」の3点目の「高齢者の日常生活を支える福祉人材」というのは、介護職も含めた広い意味での「福祉人材」という言葉が使われているのか。「目指す姿を実現するための方向性」では「介護人材」という言葉が出る。そうなるところの「福祉人材」は違った意味を持つのか。ここは「介護人材」よりも「福祉人材」を使ったほうが、「現状と課題」を指す言葉として適切なのかどうか教えていただきたいのが一つ。 ・もう一つ、重箱の隅をつつくようだが、資料1-2は「声がけ」、資料1-3は「声かけ」。「がけ」と「かけ」の違いは何か。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、「福祉人材」という表現は広がりがあるし多様性も出てくる。それを「介護人材」と表現しているのはどのようなことか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「現状と課題」のところは、姫路市も含めて広く一般に「福祉人材」という言葉を使っているが、方向性のところでは、その方向性を踏まえて市のほうが実際に取り組む事業としては「介護人材」の確保、育成になるので、方向性のところでは「介護人材」としている。 ・2点目は「声がけ」ではなく、濁らない「声かけ」である。資料1-2が間違っているので修正する。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今のご説明にご意見はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者と高齢者が近いものとして捉えられることがある。例えば1-2では「先進的技術を活用した障害者福祉の促進」のところに「自動走行車等を活用した」とあり、高齢者のところでは「ウェアラブルデバイス等を活用した」とある。高齢者には力の足りないところを補うという意味があるが、視覚障害者に自動走行といってもどうかという気がした。その辺はどうか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・同じような表現だけに、そこだけ変わると少し違和感があるということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者と高齢者問題のところを見ると、ほぼ同じ表現で出てくる。しかし、本当にそうなのか。見た目には確かに同じようだが、社会的に置かれている位置は大分違う。そこらをもう少し意識できるような表現になればいいかなと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・両方がつながってというか、実際に老化という中で起こる生きづらさの部分似通った状況になることもあるだろう。 ・「障害」という表現。この場合は「害」なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今の法律の文言に合わせている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そこもまた、単純な質問が出てくる可能性がある。
事務局 分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「害」という表現について、様々なご意見があるのは承知している。 ・その辺りも含めていかがか。当てて申し訳ないが、今思われることなどあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・普通の主婦として、普通の市民目線で見ると、今回の文章は私にとっては今までで一番分かりやすかった。 ・一つ、さっき分科会副会長が言われた「福祉人材」と「介護人材」というのは結局、同じ意味なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「福祉人材」のほうが広い意味になる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・では、違いは何か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この分野で具体的に取り組んで、事業として市が進めていくこととして

委員	<p>は介護人材の確保、育成ということなので、方向性には「介護人材」という言葉を使っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方向性の違い。職種が違うということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉のところでの人材確保ということなので、「介護人材」がふさわしいかと思う。 ・例えば政策4では、今度は子どものところなので、「保育人材」という形にさせていただいている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・優先されるものを表現してくれていると思う。 ・今、委員が言われた、とても分かりやすくなったということは、励みになる。 ・出来上がって、全ての市民がみんな納得ということは難しい。でも、そのときに市の方に聞かれると、「ああ、そうだったのか」と分かるような表現もある。「これは疑問があるのでは」というところは、ご意見を頂戴すると次につながると思う。いかがか。この辺りはよろしいか。 ・では、政策4に移る。「健やかな成長を支える子育て環境の充実」について、お願いします。 ・「目指す姿」のところで、「安心して子どもを産み育てることができている」として、方向性を示している。いかがだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1つだけ。資料1-4に関連して、せっかく「現状と課題」のところで「姫路市子どもの生活に関する実態調査」に触れられているが、いわゆる経済的な理由による学習面への影響といった、子どもの教育、学力保障関係について、右側の「方向性」の中ではあまり触れていない。もし触れるとすると、オの「質の高い教育・保育サービスの充実」の項目になると思うが、読んでみても教育施設、保育施設が一体になって、保育を重点に書かれている気がする。おそらく教育の分野で出てくると思うが、少しここでも教育の面で現状と課題を克服できるような方向性を示していただければありがたい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・もちろん教育のほうでも記載があるが、イの2つ目の○の「すべての子どもたちが現在から将来にわたって希望を持つことができるよう、子どもの貧困対策やひとり親家庭に対する支援」と記述しており、こちらのほうで提示したいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・しかし、そこは調査で現れた問題点と若干違うのではないか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・いかがか。調査も比較的直近にされている、市の状況を表した中で、「貧困線未満」の世帯など、課題のある方も含めて、少し追記が要るのではないかというご意見である。いかがだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その議論からすると、調査によって現れた問題というのは極めて土台的な部分に関連する問題かなと思う。その中で気になったのは、「教育・保育施設等」というようにひとくくりになっている。教育を補完していくための方向性みたいなものは「土台」のところで進めていっていただければという気もする。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・いかがだろうか。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・今、「貧困線未満」の世帯を問題にされているが、「地域」の中にこの問題が入っているところが問題で、やはり「土台」から直していかないと駄目ではないか。「土台」と「地域」の兼ね合いがよく分からないが、基本的な「活力」とか「土台」のほうに挙げていったらどうか。質の高い教育、保育サービスの充実と違ったところで、子どもの人権にも関わってくることだと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境は、本当に幅も広いし、それを健康福祉分野の施策として検討していかれる方向性で、「土台」というあたりにもう少し表現の検討の必要があるのではないかと、お二方から意見があった。 ・実は私が気がかりになっているのは、政策5でも思うところだが、今、福

	<p>社について集約されているところで総合福祉会館が出ているが、子育て支援、健康福祉の分野では保健所、保健センター機能があり、市全体で特徴を持った1つのポジションとして子育て支援をされている。母子手帳の交付、出産、その後の健康づくり、子育て。そこでお母様方と出会い、母子の包括というワンストップで支援していく。それは福祉でもあり保健でもあるが、そこが全く表現の中に入らない。その辺りはどうか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て機能的なものは政策4に入ってくる。 ・資料1-5の説明になって恐縮だが、会長が言われた子育ては、イの「妊娠・出産と母子の健康を支える」というところで、主要事業の概要を送らせていただいたと思うが、検討段階であるが、母子健康支援センターとして、保健所にあるところからその機能を出すことを考えている。そこに妊娠から出産までの包括的な支援体制を整えるセクションが検討されている。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・今はまだ計画段階である。ここの内容に入れられないのか。
事務局 参与	<ul style="list-style-type: none"> ・それを踏まえた表現を検討したい。 ・現在はその機能が保健所にあり、先ほど言われた総合福祉会館という言葉を入れるように、市民からしたらまずどこに相談に行ったらいいかという部分は具体的に示したほうがいいというご意見かと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・私の表現が言葉足らずであったが、やはり今後の10年ではとても重要だと思う。それから、つくられるときに、制度設計の段階でまだ明確になっていないものも当然おありかと思うので、その辺りについては事務局でご検討いただく。やはり分科会の中で意見が出ていることは重要だと思う。それが今後の市を豊かにしていくものだと考えるので、ぜひともそういったところをご検討いただきたい。 ・子育てというところは、いかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で子育てをしている者として、いろいろな問題が地域の中で浮き彫りにできるような形になればいいのになと、日頃よく思う。誰でも気軽

	<p>に相談できる、近所付き合いができる、地域の皆さんにとって子育てをしやすい環境になればいいのと思う。特に問題を持っている親御さん、家庭は地域から外れてしまいがちなので、そこをどうフォローしていくかが課題だと日頃思っている。</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。委員の意見から、市民が相談しやすいというところをきっちりと表現していただくといいのかなと思った。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・イの1点目のところは、その辺を意識して取り組んでいる。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の充実という分野で、「目指す姿」が、環境が整いということなので、人的な環境と物的な環境の両面から目指す方向性を書かれているので、私は整合がついていると思う。先ほど委員が言われたのは、そういうことをすることによって子どもの健やかな成長が担保できるという表現がどこかにあればスッと落ちると思う。人的な環境を整備した、物的な環境を整備した、それで子どもがどう変わっていくかという、その部分の表現があればよいのではないかと感想として持った。それが1点。 ・それから、「現状と課題」の4つ目に「貧困線未満の世帯」と書いてあるが、「貧困線未満」という言葉が何を表すのかお分かりになるだろうか。もし難しいようなら、例を挙げながら「いわゆる貧困線未満」というような表現のほうが分かりやすいかなと思った。 ・最後、「市民、地域コミュニティに期待すること」の市民の1つ目の文章だが、この文章は後の文章の内容とレベルが違うのではないか。「男性も積極的に子育てに取り組みましょう」。こだわるわけではないが、「も」が気になる。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。3点ご意見を頂いた。いかがだろうか。 ・実際、子どもが豊かに育っている姿という何らかの象徴的な表現があるといいというのと、2点目の「貧困線未満」の表記は、何をもちて基準とされたかがあるほうがいいという点。 ・3点目は、「男性も」というところである。いかがか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・1点目の指摘は目指す姿に関わってくると思うが、そこは今言われたようなことを付け加えたほうが良いというご意見と受け取ってよろしいか。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そこまで強くは思っていないが、委員の発言に関連してそのような意見を持ったということである。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここで表現しているのは子育て環境の充実を目指そうということで、「健やかな成長を支える環境が整い、安心して子どもを産み育てることができている」。最後は「産み育てることができている」で止めているが、今の委員のお考えでは、そうなって、より豊かになった子どもの姿なり市民の姿まであるほうが良いというところ。そうなると、ここが随分変わってくるというご意見である。どうだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・直近で悲しい事件が姫路で起こって衝撃的だったが、そこには地域のことや人材づくり、誰にでも相談ができるといった、様々なことが絡んでくるところではないかと思う。私は保育人材の確保以前の人材づくりをしている。市のほうもすごく努力していただいて、なかなか保育に興味を持つ子が少ないという課題があるが、市は給料を上げたり、1人暮らしの保育士を支援したりするなど、たくさん手立てをしていただいている。一方で、人材づくりのほうでは、中高生への保育の魅力発信を年に1～2回するぐらいではなかなか追いつかない。私たちも人材確保にもっと協力していきたいと思っているので、いろいろ発信していただいたら盛り上げていきたい。よろしく願います。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。人材について今後の方向性をつないでいけば市民のほうの受け皿はあるという心強いご意見だった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の1点目の意見については、先ほどのご意見を踏まえて、どこかに追加できるようであれば、入れていきたいと思う。 ・それと、「貧困線未満」という言葉は、これ自体は意味を持っている言葉

	<p>で、作った言葉ではない。先ほどから言葉の意味についてご質問がある。月曜日にあった分科会でも横文字に関してのご質問があった。ICT、AIなど市民の方々に分かりにくいという指摘を受けている。そういった言葉については、今の総合計画では用語解説ということで最後のページに語句の説明を付けているが、今回も当然それは付ける。他都市の総合計画を見ると、同じページの欄外、下に付けたりしているものもある。それをどちらにするかは今考えているが、「貧困線未満」についても語句解説を付けようと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後の市民のところの「男性も」は、我々の認識では男性ももっと育児に参加していこうという思いを書いているが、「男性も」という言葉は取ったほうがいいのか。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この言葉自体が文章言葉でなくて、話し言葉的になっているので、表現に工夫の余地があるのかなと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことはわかるが、表現を少し検討していただいたらというところだろうか。いかがか。その辺りでご意見はあるか。よろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・変更する方向で検討する。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、政策5「健康で安心な市民生活の充実」ということで、目指す姿に追加をしていただいている。「充実した保健・医療環境の下、市民が主体的に健康づくりに取り組むことで、生涯にわたり健康に暮らすことができている」が目指す姿である。また、「現状と課題」の最後のところに、新型インフルエンザや新型コロナウイルスについての国・県や関係機関との連携、情報提供や検査体制、医療機関等への感染症対策物資の提供など防疫対策という表現での追加があった。いかがか。 ・今日は、医療関係の委員お二方がご欠席である。医療分野の先生方のご意見のあるところかなと思うが、いかがだろうか。 ・今、新型コロナで大変な思いをなさっている健康福祉部の辺りかと思うが、そういうところでのご意見、追加で教えていただけることがあればと思うが、どうだろうか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど将来的にできる母子健康支援センターの話を申し上げたが、現在でも保健所の中に、国の事業であるが、子育て世帯包括支援センターというのがあり、妊娠から子育てにわたるまでの様々なニーズに対して切れ目のない支援を行うという形で部署を設けている。その下で今皆さんにお配りした想定される取組にあるようなことがされている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。そういったところが強化されていくのではないかなという、福祉の中でも地域共生という形も含めての子育て支援。今、本当に少子化であり、一方では高齢者を中心とした支援の充実もあるが、やはり子どもをしっかり産んで育てていただきたいという願いは、どのお立場でもお持ちと思う。その辺りについてはこのイ、「妊娠・出産と母子の健康を支える環境づくり」で表現を頂いている。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・今言われたように、全国的にコロナの関係で医療が大変な状況であると思う。やはりコロナを受けている病院は大変で、今看護師が辞めるなど、病院に勤めている医療従事者が、減っていつている状況もあるようだ。西のほうはそうでもないかなと思いつながらも、私も看護師をしているので、いろいろなお話を聞く中で、人材の確保は、普段からも課題だが、大きな課題。医療従事者の確保と定着ということで、姫路は看護協会と連携をとって取組をされているとお聞きしている。医療従事者の確保のために力を入れていかないといけないと思うので、計画の中での書き方はこちらで十分と思うが、中身的にそこに力を入れていただきたいと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で安心な市民生活の中に、地域医療というのはとても重要であると書いていただいていたたり、子育て、妊娠・出産を支えるところとか、生涯を通じた健康づくりという非常に項目の多いところだが、そういったところを表現してくださっている。 ・この辺、医療体制は県とのつながりもおありだろうし、そういった状況も踏まえて、それからそこには機能別の特徴的な医療の状況というところで、夜間の問題、救急、医師会との連携ということが書かれている。そし

事務局	<p>て、このもともとの最初のところには生活衛生という表現があり、健康管理体制の中では感染症、食中毒のところをより強く出されている。災害辺りは安全・安心で扱うというところだろうか。</p> <p>・今回のコロナということに特化するのではなく、様々な健康危機ということで表現をしている。</p>
分科会会長	<p>・今社会的には保健所の機能強化というのが随分取り沙汰され、そういったことも市民の方は結構意識されているのではないか。場合によっては、そうした保健所に関する表現を出しておかないといけないかもしれない。</p> <p>・姫路市は環境衛生研究所を直接持っておられるから、こういう検査体制の充実というところではどんな状況だろうか。先ほどの母子のところは、もしかすると場所が移るといったお話があったので、検査というところについての状態とか、その辺りについてはいかがか。</p>
事務局	<p>・コロナのことを含めて、検査体制の充実や強化というような方向も方向性としてあると思う。</p>
分科会会長	<p>・あと、生活環境というところで、「生活衛生施設」という表現で様々なことが書かれている。ごみとか廃棄物とかはどちらになるか。</p>
事務局	<p>・ごみ、廃棄物については環境分野である。</p>
分科会会長	<p>・それはここには表現されていない。それぞれいろんなポジションでお仕事をされているので、どのように全体が構成されていくかなというところで気になる部分はある。</p> <p>・委員、いかがか。</p>
委員	<p>・途中から代わって、12月から委員をさせていただいている。やはりお年寄りの方との関わりが多いので、このたびの熊本の防災のことで、民生委員が声かけをして回るとかいうのもあったようで、そのときどうしたらいいかなというのもあり、いろいろ話をしている。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり日々、高齢者の一人住まいの方の生活を見て聞いている。お年寄りのことは何とかできるけれども、子どものことが難しい。学校から連絡を受けても民生委員は何もできない。ただ見守ってくださいと言われるが、見守るだけでは、夜遊びしている子に「してはいけません」とも言えないし、「あなたの子どもさん、夜、遊びに行ってますよ」とも言えない。その辺のところを行政で何とかしていただけたらなと、いつもそれは思っている。子どものことに関しても、学校から相談を受けても、内緒にしておかなければいけないこともあるし、かといって遊びに行つて、夜中に門のところであつちまわしている子どもたちに、「帰りなさいよ」とも言えない。何とかならないか。児童委員というのもあるし、民生委員は高齢者を担当しているので、その辺は難しいところもある。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。本当に本質的な課題である。実際になり手がいないということを言われながら、その方が抱えておられるジレンマのようなことを言っていたらと思う。 ・この委員会は本当に幅が広くて、それぞれのところからいろいろな思いがある。その分、事務局が整理し、作っていかれる大変さは本当に敬服している。今日こういう形でご意見を頂いたので、また今後の検討に生かしていきたい。 ・では、「その他」に進む。
事務局	<p>3 「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料説明
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。このことについてご質問等はないか。今日ご提示いただいたので、またご意見等があれば頂いて、次につないだらいいかなと思う。それでは、事務局にお戻りする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。幾つか宿題も頂いているので、次回ご報告させていただきたい。 ・次回は7月30日の14時からだが、こちらで教育分野をご審議いただき

事務局	<p>いと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none">・それから、駆け足になるが、8月31日（月）に最後の取りまとめの全体会議を開きたいと思っているので、事務局からご案内をさせていただき、ご出席の検討を頂ければと思う。以上である。・皆さんから非常に有意義な意見を頂いて、どうもありがとうございました。以上をもって第3分科会第4回会議を終了させていただく。 <p>4 閉会（16:05）</p>
-----	--